平和学習から感じたこと

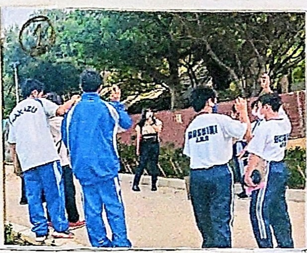
平和新聞

令和3年度
宜野湾市 平和大使

宜野湾中学校

1年　本間翔也

事前学習　一日目



ここでは、戦争について現在知っていることをみんなで共有し合った。

②

陣地壕の前でなにがあったのか。ここはなんなのかなどを話してもらった

〜陣地壕とは?〜

日本軍が陣地を構えるために掘った軍専用の人工壕のこと。

〜陣地壕の中はどうなっているの?〜

この陣地壕の中は、頭に石を乗せて二列で歩けるくらい広く、走れるくらいの長さもある。

③

ここでは、米軍が沖縄本島のどのあたりから攻めて来たのかを学習した。

〜米軍の戦い方〜

米軍は、沖縄本島の読谷から上陸し、北南に分かれ、本部がある。首里に目指し進んでいたが、本部が追いつめられるごとに、南へ南へと本部をうつしていったのを米軍が追いこんでいった。

④

トーチカはどのように使われていたかや、なんの目的でつかわれていたか学習した。

〜トーチカとは〜

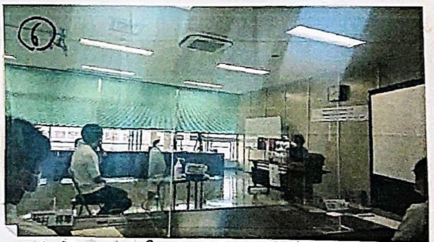
鉄筋コンクリートで堅固に造られた防御陣地のこと。ロシア語で点や拠点を意味する。銃眼(写真⑤)と呼ばれる穴などから機関銃などを出して相手を攻撃をしたりした。

⑤

一日目の感想

陣地壕・トーチカ・銃眼などの難しい言葉がたくさん出てきた。けれどそれらの名前には、ちゃんと意味があってつけられたものだと感じた。さらに、トーチカ写真④は、もともと四角だったけれど、米軍の攻撃によってこわされたらしい。

二日目



⑥

今人気の平和を伝えるまん画「ペリリュー」の作者武田一義氏が来てこのまん画の内容を聞いてどう思ったかやなぜこのまん画を書こうと思ったきっかけを聞いた。

〜この本を読んで思ったこと〜

みなさんは平和のまん画と聞いてつまらなさそうって思いますよね。しかしこのまん画はストーリー性があってとても読みやすい。

⑦

小説「特攻最後の証言」

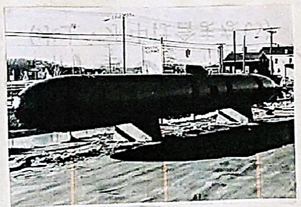
〜作者岩井兄弟に手紙を書く〜

この二人の方は、「潜水特攻伏竜」と「人間魚雷・回天」の2つを体験している。

〜特攻隊に対しての感想〜

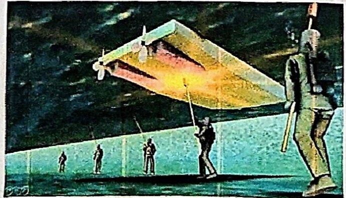
ぼくは特攻なんて使ってはいけない手段だと思う。「回天」は突げきしたらなくなるのでえも子もないが何度も行けるように死なずに敵船を沈めた方がいいんじゃないのかと感じた。

写真⑦の二人が体験した特攻



人間魚雷・回天

船から発射され水中を進み敵船に体当たりをして、つんだばく薬をばく発させ、敵船を沈める。



潜水特攻・伏竜

あらかじめ水中に棒の先にばく薬をつけてたものと背中にもばく薬をつけて、真上に敵船が通ったときに下から棒で船底を突いて背中と棒のばく薬をばく発させる。

二日目の感想

元。特攻隊の岩井兄弟が生きて帰ってこれたのは、まさに奇せきだなと思った。伏竜なんて背中にばく薬を背おって、水中にいてばく発するとか遠まわしに死んでこいって言っているものだな。と考えてみると鳥肌が立つ。これが戦場なんだと実感した。

二日間の感想

現在の平和があるのは、沖縄戦で亡なってしまった人がいるから今の平和があると感じられた。この写真をみてみると、いかに、どんどん沖縄が攻められているなと分かった。これからは、二度と日本で世界でも戦争がなく平和が続いてほしいなと思う。